

聖書：ヨハネの黙示録 3：7～13

説教題：開かれている門

日時：2021年1月10日（朝拝）

アジアの7つの教会に対する主のメッセージの第6番目、フィラデルフィアにある教会へのメッセージを見て行きます。このフィラデルフィアは、前回のサルディスから南東へ約 45 kmほど行ったところにある町で、今日の名はアラシェヒルとなっています。さてこの手紙を読んで思うことは何でしょうか。それは主の叱責の言葉がないということではないでしょうか。以前にこの黙示録の7つの教会の内、最初のエペソと最後のラオディキアの教会は霊的に危機的な状況にあり、主からの厳しい言葉が記されている一方、そのすぐ内側の2番目と6番目の教会には主からの叱責の言葉がなく、称賛されている教会だと申し上げました。この6番目のフィラデルフィア教会は2番目のスミルナ教会と並んで主から高く評価されている教会でした。果たしてこの教会の優れた点とは何だったのでしょうか。

主は8節で「わたしはあなたの行いを知っている」と語り出した後、その節の後半で「わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかった」と言っています。フィラデルフィア教会は主の言葉に従い、公の告白が求められる場面で主への信仰を勇敢に証した教会でした。また10節に「あなたは忍耐についてのわたしのことばを守った」とも言われています。ここは原文では「わたしの忍耐についてのことばを守った」となっています。ここでまず言われているのは「わたしの忍耐」、すなわちイエス様の忍耐のことです。イエス様がこの世に來られて真の神を証しし、伝える歩みは決して平坦なもの、気楽なものではありませんでした。福音書に記されている通り、多くの人々からの拒絶、反対、迫害がありました。その中でイエス様は勇気ある歩みを最後まで貫徹されました。それは一言で言って「忍耐の歩み」でした。そしてイエス様はご自身に従う者たちも、ご自身に倣って、この忍耐の道を歩むようにと語っておられます。最後まで耐え忍ぶ者は救われますと主は言われました。その言葉にフィラデルフィア教会の信者たちは従って来ました。

しかしこれは彼らが信仰を守りやすい環境にあったからではありません。彼らにも様々な困難な問題がありました。その一つとして8節に「あなたには少しばかりの力があって」と言われています。そこには印がついていて、欄外の8に別訳とし

て「少ししか力がなかったが」と記されています。つまり彼らは弱かった。おそらく人数的に大きな教会ではなかった。むしろ小さかった。あるいは社会の中で低い立場にある人たちが多かったのかもしれませんが。そのために経済的にも力がなかった。社会に与える影響力においてもそうです。世の人が見ればほとんど無視できるような人たち。そう言えば2番目に出て来て主に称賛されたスミルナ教会もそうでした。彼らも貧しいと言われていました。主を告白する信仰のゆえに苦難を受け、その状態に追いやられていました。しかしそういった二つの教会が主の前で優れた教会として高く評価されています。改めて私たちの評価と神の評価は何と大きく異なるかを思わされるのではないのでしょうか。ですから私たちはこの世的な目で、すなわち人数の多さとか経済力とか社会的インパクトといった観点から安易に評価し、これらの教会を見下すことがあってはならないと戒められます。このフィラデルフィア教会、そしてスミルナ教会に対する主の評価を思い起こさなければなりません。

またフィラデルフィア教会は迫害されていたであろうことが特に9節から伺えます。9節に再び「サタンの会衆」という言葉が出て来ます。2番目のスミルナ教会への主の言葉にも出て来ました。2章9節に「ユダヤ人だと自称しているが実はそうでない者たち、サタンの会衆である者たち」とありましたが、今日の3章9節にも「ユダヤ人だと自称しているが、実はそうではなく、嘘を言っている者たち」とあります。どちらも同じです。この人々は自分たちこそユダヤ人、神の民である！と自称しつつ、神が送ったキリストを拒絶し、この方を信じるクリスチャンたちを迫害していた。そのことによって本当は神の民でないこと、すなわち真のユダヤ人ではないことを示しているということです。それどころかキリストとキリストにつく真の神の民を攻撃するサタンの会衆であるということです。その彼らによってフィラデルフィアの教会員も迫害されていたようです。8節の言葉もそのことと関係すると思われます。このユダヤ人たちによってフィラデルフィアの信者たちはキリストを否むように圧力をかけられた。キリストを信じると告白すれば社会的に様々な難しい状況に置かれることとなります。そんな中でも彼らは主の言葉を守り、主を否みませんでした。8節の「守り、否まなかった」という言葉は、ギリシャ語の時制から考えて過去のある時点でなされた決定的な出来事を指すと考えられます。フィラデルフィア教会にはかつて、その信仰が問われる重大な試みの時があったのです。そこで彼らは主の言葉を守った！また主を否まなかった！この彼らの忠実さをキリストは見ておられます。そしてあなたの行いを知っている！と言ってくださいとい

ます。この結果、このあと触れますように、彼らは会堂から追放される扱いを受けたようです。

そんな彼らに主は励ましの言葉を語って行かれます。3 つのことがあります。一つは最初の主の自己紹介の言葉です。7 節で主はご自分のことを「聖なる方、真実なる方、ダビデの鍵を持っている方、彼が開くと、だれも閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる」と語り始めておられました。それぞれの手紙における最初の主の自己紹介の言葉は1章の主の姿から取られていると申し上げて来ましたが、これと対応するのは1章18節です。全く同じではありませんが、そこに「死とよみの鍵を持っている」とありました。これはイエス様が十字架と復活を通して、今や死の上に絶対的権威を持ち、その死の領域からある人たちを自由に救い出し、またある人たちをそこに閉じ込めたままにしておく力を持っているということでした。それをより積極的に言い表したのが今日の箇所の「ダビデの鍵」という表現です。これはイザヤ書22章22節からの引用で、このダビデの鍵はダビデの家の鍵、すなわち神の都エルサレムの鍵を意味しています。そしてその神の都はやがての天の御国を指し示すものでした。つまりイエス様は単に死者を死の領域から解放したり、そこに閉じ込めておく権威だけでなく、救われた者が入る天の御国を開け閉めするダビデの鍵を持ちたもうお方であるということです。その方が開ければ誰も閉じることができず、またその方が閉めれば誰もそこを開いて入って行くことができない。そのイエス様が8節でフィラデルフィアの信者たちに「見よ。わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた」と語っておられます。どういうことでしょうか。これは彼らがユダヤ人から迫害され、会堂から追い出されていたことを前提にしていると考えられます。迫害するユダヤ人たちはクリスチャンたちに向かって、この会堂に入れぬおまえたちは神の民ではない。従って天の御国に入れぬ！と言って彼らを外に締め出していた。しかし主は、その彼らのために天の御国の門を開いている！とここで語っておられるわけです。人々が彼らを追い出そうが、ダビデの鍵を持ちたもう主が彼らのために、天の御国の門を大きく広げておられる。彼らの前にその門は開かれた状態になっている。誰かが来て閉じようとしても、それはできない。

2 つ目の励ましは9節です。ここに迫害するユダヤ人たちが足元に来てひれ伏すようになると言われていています。これはイザヤ書60章14節をもとにした言葉です。

「あなたを苦しめた者たちの子らは、身をかがめてあなたのところに来る。あなたを侮った者どもはみな、あなたの足もとにひれ伏して、あなたを『主の都、イスラエルの聖なる方のシオン』と呼ぶ。」 これはイスラエルに敵対し、イスラエルを苦しめていた外国人がやがてイスラエルこそ神の民であることを悟り、足元に来てそれを認めるようになるという預言です。そのように、迫害するユダヤ人たちがやがてクリスチャンたちの足元に来て、彼らこそ神が愛している本当の神の民だと認めるようになる。お気づきのように、ここにはある種の皮肉があります。本来これは外国人がすることについての預言です。ところがここではユダヤ人たちが外国人の立場に立っています。霊的な意味では確かにそうなのです。そしてポイントは、その反対者たちがやがてひれ伏して認めざるを得ないほどに神はクリスチャンたちへの愛を明らかにされるということです。なお今日は詳しく述べませんが、もともとのイザヤ書の文脈では、異邦人がやがて足元にやって来ることは彼らが救いにあずかるようになるということでもあることが示されています。だとすると、ここには迫害するユダヤ人の中からも、やがて救われる者たちが起こされるという暗示があるのかもしれませんが。そのためにもフィラデルフィアの信者たちは用いられるのです。主は彼らを愛し、守り、今は信じられないようなことではあるが、やがて敵の中からも救われる人が起こされるためにも彼らを用いてくださるということなのです。

そして3つ目の励ましは10節です。全世界に来ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守ると。「地上に住む者たちを試みるため」とありますように、厳しい試練の時が来る。その中でも彼らを守るということです。注目すべきは「わたしも」あなたを守ると言われていることです。これは10節最初の「あなたはわたしのことばを守ったので」という部分を受けています。これは私たちが主の言葉を守るという生活なしには後半の主の守りもないということを意味します。フィラデルフィアの信者たちの主の言葉を守る生活はこのように報われるのです。彼らが迫害の中でも主の言葉を守ったので、主も彼らを守ってください。

以上のことに基づいて最後に彼らへの命令と、その彼らに将来与えられる祝福について11節以降に述べられます。まず命令は11節です。「わたしはすぐに来る。あなたは、自分の冠をだれにも奪われぬように、持っているものをしっかり保ちなさい。」日本語で読むと「自分の冠をだれにも奪われぬように」という部分が先

に訳されているため、その冠はすでに私たちが持っている何かを指すように読めませんが、原文でまず言われているのは「持っているものをしっかり保ちなさい」ということで、その後に「自分の冠をだれにも奪われないように」と記されています。ですからここで命じられていることは、持っているものをしっかり保て！ということです。すなわち福音をしっかり保ち、信仰を保ち、主の言葉に従う生活を続けよ！ということです。今ある通り、忠実な歩みを最後まで保ち続けよ！ということです。そうすることを通して、将来授けられる冠をだれにも奪われることがないように！ということです。この冠はレースの最後に授けられる勝利の冠のことです。それを自分のものとして確かに受け取ることができるように今の歩みを続けよ！ということです。

そして最後に勝利を得る者、すなわちイエス様の言葉に従い、この課題を克服する者への約束が 12 節に記されています。そこに「神の神殿の柱とする」とあります。もしかするとある人はここを読んで、私たちは天国に行ったら建物の一部になるの？いのちあるものでなく、冷たい石のようになるの？と思うかもしれませんが、黙示録はそうのように読むべきではありません。これは象徴的な表現です。また後ろの方の 21 章 22 節に、やがての天の御国を描写する中で次の言葉が出て来ます。「私は、この都の中に神殿を見なかった。」 ある人はこれを発見して「神殿がないと言われているのに、今日の箇所では神殿があるように言われている。これは矛盾していないか？」と言うかもしれません。しかし 21 章 22 節の続きにこうあります。「全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。」 つまり私たちが神殿の柱とされるという表現の意味は、都の神殿であると言われる神とキリストとの一体の世界に、その豊かな交わりの中に生かされる者となるということに他なりません。「彼はもはや決して外に出て行くことはない」と続きます。このフィラデルフィアは地震が頻発する地域で、人々は地震のたびに周りの町々へ逃れて行ったようです。しかし天の御国はそんな不安定なところではない。神との交わりの生活は安定していて、落ち着いていて、いつまでも続くこの上ない幸いな生活です。

そしてその柱とされた者たちに 3 つの名が記されると続きます。一つは「わたしの神の名」、2 つ目は「わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名」、そして 3 つ目は「わたしの新しい名」。一つ目の「神の名」が記されるとは彼らが「神のもの」とされること、2 つ目の「新しいエ

ルサレムの名」は「天の御国の市民」とされること、そして3つ目の「わたしの新しい名」とはイエス様の新しい名ということで、2章17節で見ましたように、今私たちが知っているレベルをはるかに超える仕方でイエス様の素晴らしさ、麗しさ、その栄光を知るようになるということでしょう。私たちはその日にまるで新しい方を知るかのようにして、イエス様の完全なお姿を心から感動しながら味わい知り、それを永遠に喜び楽しむ者となるのです。このような至高の幸いが待っています。ですから最後に「耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい」と語られ、ただ聞くだけでなく、これを自らに当てはめて生かすように！とすべての教会、信者に向かって語りかけられています。

以上、フィラデルフィア教会は小さな群れで、力は弱く、迫害の中で見過ごされそうな教会でしたが、主はしっかり見ておられ、高く評価されました。小さいからダメとは言われませんでした。彼らは信仰に堅く立つがゆえに地上では人々から退けられていましたが、彼らの上には常に開かれている門がありました。そして主は彼らを愛し、ご自身の民であることを必ず明らかに示し、彼らを地上で守り、最後の祝福まで導くと約束されました。私たちもこの世の基準で自らを見たり、そのあまり世に迎合するのではなく、この主の言葉の光の下で自らの歩みをもう一度見直したいと思います。そして主が言われたように、今持っているものをしっかり保ち、冠を奪われない歩みへ、そして神の神殿の柱とされ、御国に入り、主を新しく知り、その主と永遠に交わり賛美する最高の幸せに生きる者とされることを待ち望む歩みへ、この年も一步一步進んでまいりたいと思います。